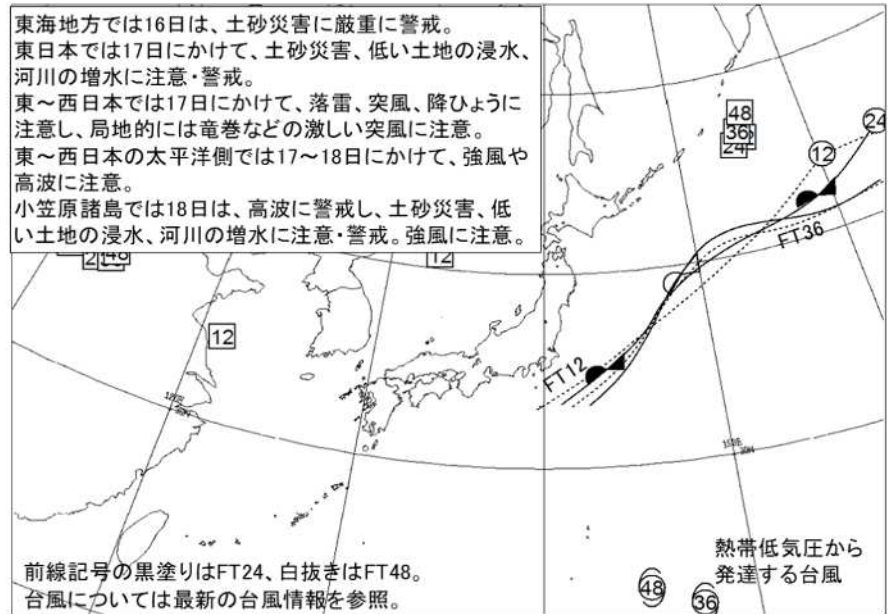


1. 実況上の着目点

- ① 朝鮮半島付近の500hPa5820m付近にはトラフがあって東進。また500hPa5820m付近の強風軸に対応する前線が、四国沖から東海道沖を通して日本の東へのびている。前線の暖域側にあたる日本の南では、非常に激しい雨を解析し、発雷を多数検知。前線上の日本の東の低気圧は東北東進している。
- ② 南西諸島付近では、東風と北東風が収束しており、局地的に激しい雨を解析している。
- ③ 日本海と千島近海には高気圧があって、ほとんど停滞。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の強風軸は17日にかけて西日本から東日本を通り、東～西日本の上空には寒気（500hPaで-9℃以下）が広がる。また1項①のトラフが16日夜には、東日本付近へ進む。前線は17日にかけて日本の南を南下するが、前線の北側にも降水域が広がる見込み。東～西日本では、前線に向かう下層暖湿気や太平洋高気圧の縁辺から流れ込む下層暖湿気と上空の寒気の影響で、大気の状態が非常に不安定となるため、雷を伴う激しい雨が降り、大雨となる所がある。東海地方では16日は土砂災害に厳重に警戒。東日本では17日にかけて、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒。東～西日本では17日にかけて、落雷、突風、降ひょう、局地的には竜巻などの激しい突風に注意。前線は東へ進み、次第に日本への影響は小さくなる見込み。
- ② 1項③の千島近海の高気圧は、17日夜にかけて千島近海を北東へ移動する。高気圧と前線との間で気圧の傾きが大きくなるため、風が強くなり、波が高くなる所がある。北～西日本の太平洋側では17～18日にかけて、強風や高波に注意。
- ③ 18日は、熱帯低気圧から発達する台風が小笠原近海を西北西進し、小笠原諸島に接近するおそれがある。台風の影響で非常に強い風が吹き、大しけとなる所がある。小笠原諸島では18日は、高波に警戒し、強風に注意。台風の動向次第では、暴風の可能性があることに留意。また、小笠原諸島では18日は、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒。落雷、突風にも注意。九州では18日は、落雷、突風、急な強い雨に注意。九州では18日は、台風周辺からの下層暖湿気が流れ込み、大気の状態が不安定となるため、落雷、突風、短時間強雨に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点

- 総観場はGSMを基本、量的予想や降水分布はMSMやLFMも参考。
4. 防災関連事項〔量的予報等〕 ①雨量(18時から24時間)：関東甲信 120mm。②波浪(明日まで)：関東・伊豆諸島・東海・近畿 3m。

5. 全般気象解説情報発表の有無

発表の予定はない。